

説教余滴 2019年2月17日 「神のみぞ知る」

「東京練馬区の桜台教会に通っていた頃、老いた小林吉保（よしやす）先生の靈感溢れる説教（「子に負けて嬉しき親の田植えかな」などと俗耳くぞくじ）に入る話も含まれた）を聴きながら、ポロポロと涙を流すのが常だったから、吉保先生は「榮一君はきっと献身する（牧師になる）よ！」と家族に言っておられた。

同志会（クリスチャンの東大生の寮）の先輩小西芳之助牧師（内村鑑三の弟子）も、「加藤君は献身するだろう」と人に言っておられた。小西先生（導源と号す）の信仰の遠祖は、恵心僧都（えしんそうず）源信である。源信は『往生要集（おうじょうようしゅう）』の著者だから、まさに地獄極楽図の根拠を建てた方である。榮一の幼時の感受性に連なるのである。

私が、両師の予言に反して、献身せず、38年もの公務員生活を辛くも歩んだのは、色々因縁もあり、また、84歳となった今から、何かの形で献身するかもしれないが、神ぞ知る。」

60年前、練馬にある桜台教会へ行きました。そこには東京大学の学生加藤栄一さんと上原さんがおられました。卒業年度だったのでしょうか、遠くに離れて仰ぎ見る感じでした。その名は、長く記憶に残り、どうしておられるか、と心の一隅で話しかけていました。本日の説教のため、小林吉保牧師をネット検索。そこに「天樹老人美食エッセイ」と題する者がありました。副題は「筑波大学名誉教授、俳人加藤国彦が記す美味しいもの、美味しい店の話」とあり、それに惹かれて読み始めました。なんと、加藤栄一さんでした。

更に、小西芳之助先生は、旧知の山添順二牧師のご父君。山添先生は品川教会の伝道師を初めに、熊谷、下谷、岩槻と私には深い関わりがありました。また、キリスト教保育連盟でも副理事長を勤められました。加藤・小西・山添、三先生は小林吉保先生とこのように連なっていたんだ。神のみぞ知る。